

都中英研だより

第 62 号

東京都中学校英語教育研究会
会 長 井 田 宗 宏
(練馬区立豊玉中学校長)

事業部主催 Teachers' Summer Workshop 2011 の報告

今年度のサマーワークショップは、平成23年8月18日(金)に、千代田区立九段中等教育学校を会場として開催された。講師は、北区立王子桜中学校 根本教諭、杉並区立和田中学校 芳賀逸子教諭、千代田区立九段中等教育学校 本多敏幸教諭にお願いした。ここ数年、午前の部の講師は、教師道場2年目の先生方にお願いしている。根本教諭と芳賀教諭も、教師道場で学んでいることに基づいて、実践報告をしてくださった。

根本教諭は、言語活動の実践例をあげて、活動の進め方を理論的な裏付けとともに説明した。また、教師道場に通う前と現在を比較して、教科指導について、どのように考えるようになったかを、具体的にわかりやすく話した。授業にすぐに生かせるアイデアが盛り込まれ、参加者も実践してみたいと思う内容だった。

芳賀教諭は、授業の組み立て方を中心に、教師道場で学んでいることを報告した。なぜこの活動をここで行うのかといった、授業の進め方についての実践報告は、参加者それぞれが自分の授業について振り返るために、非常に有益であったことと思う。

本多教諭は、「授業の基本」というテーマで、生徒に力をつけさせる授業を作るための方法について話してくださった。ワークショップ形式で、参加者は指導過程について、隣の席の参加者と意見を交換しながら、理解を深めていった。また、

家庭学習の指示について実践していることを教えてくださったことは、参加者には大いに参考になった。

生徒に力をつけさせる10の要素として、「プロダクション活動を行っている」「活動を吟味し、最もその目的に合ったものを行っている」といったチェック項目を知ることができたことも、日頃の授業を見直すために、大変参考になった。

事業部主催のサマーワークショップでは、例年会場の都合で定員を設けていた。そのために、事前に参加申し込みをしていただいていた。今年度は、160名収容できる千代田区立九段中等教育学校の視聴覚室をお借りすることができたので、事前申し込みなしで行った。当日は95名の参加者があった。これまでのように、参加を希望している方の何名かにお断りすることがなく、主催者としてはよかったと思う。千代田区立九段中等教育学校の校長先生をはじめ、教職員の方々に、この場を借りてお礼を申し上げる。

サマーワークショップは、夏休み明けの授業にすぐ生かせるアイデアを、理論とともに学ぶ場として開催している。そして、「楽しくて力がつく授業」を多くの先生方に実践していただきたいと願っている。今年度のサマーワークショップが、参加した先生方の授業力向上につながり、生徒の英語力や英語学習への意欲の向上につながることを期待している。

(事業部)

足立区の実践報告

—小学校外国語活動における小中連携の取り組み—

足立区立加賀中学校 大木田陽子

1) 小中連携の目的

① 外国語活動指導の援助

平成23年度から小学校での外国語活動が必修になった。小学校の教員が苦手とする外国語活動の指導に対して、中学校の教員が学習内容や指導方法に対するアドバイスを行うことで、小学校の教員の指導力向上にもつながる。

② 中学校への円滑な接続

中学校の教員が小学校の指導に加わることで、児童にとっては、小学校から中学校へ円滑に接続できるという効果がある。

- ii) 中学校の授業で使用する教材を使用する。
- iii) 中学校の授業で行う活動を小学校レベルにアレンジして行う。



2) 具体的な取り組み

① 小学6年生への体験授業

年1回、児童が中学校の英語の授業を実体験できる貴重な機会である。

取り組み内容のポイントをいくつかあげる。

- i) 出来る限り、クラスルームイングリッシュを活用する。
- ii) ICT機器を使用し、視覚的にも分かりやすく説明する。
- iii) コミュニケーション活動を取り入れ、speakingの時間を確保する。



② 小学校への出前授業の実施

英語ノートの範囲内で小学校の教員と打ち合わせを行った上で、指導する。

外国語活動のつながりを意識した具体的なポイントは以下の3つである。

- i) 中学校の授業で実際に使っているクラスルームイングリッシュを小学校でも活用する。

③ 教員同士の交流

小中交流会や教科連絡会を通して、教員同士が指導について協議するとともに、コミュニケーションを図る機会となっている。また、小学校の校内研修に参加し、意見交換会を行い、小学校の教員への具体的な技術指導や苦勞している点への助言をしている。交流を深めることで、そこから互いの信頼が形成され、また、その関係が広がることで、さらに連携が深まる。

3) 今後の見通し

本校では、本年度より足立区の『小中連携モデル校』として、皿沼小学校との連携を進めている。交流のために時間をどのように生み出すか等の課題も多く、中学校側に負担がかかると考えられる小中連携事業だが、そのリスクをチャンスと捉えて、続けていきたい。

今後とも、児童生徒の実態に即した連携の在り方を互いに共有し、深めながら組織的に推進していけるよう努力したい。



プロジェクトチーム部研修会参加報告
新学習指導要領全面実施に向けて、円滑な移行となる中学校英語の役割
—英語教師のスキルアップ研修—

講師：駒沢女子大学准教授 太田洋先生

8月22日、豊島区立明豊中学校にて実施された研修会に参加した。はじめにウォームアップとして、3 hints guessing game “Who am I?” が紹介された。次に、教科書題材の導入として、レッスン扉ページの挿絵を参考に、題材について知っていることをペアで話し合った。行った活動のねらいの分析から、小学校外国語活動との連携で重要な点が確認された。全国で多くの小学校の先生方が意欲的な実践を積み重ねられていること、またその中では、音声大切にされ、コミュニケーションの「素地」を育成するため、わからないことがあっても提示される英語を聞き続ける練習がよく取り入れられていることである。従って、中学校では引き続き音声を大切にされた指導がこれまで以上に求められるし、読み書きを充実させるために文字と音を結び付ける工夫の充実が必要である。

新学習指導要領への対応では、読み書きに関する指導の充実についてのお話があった。まず、読解に際しては、単語や文構造を押さえてから一文ずつ詳細に読んでいくbottom upの読み方だけでなく、全体としてどういうことを言っているのかをまず大まかにとらえるtop downの読み方を積極的に取り入れ、実際のコミュニケーション場面に近い読み方をさせることが必要である。

また、「読解力」育成の視点から読んだあと何をするかが重要で、読んでわかった内容のevaluationや、理解した英文を再検討して既習の語いの定着を図る活動が紹介された。evaluationの例としては「読んでみて、ふーんと思った文に下線を引こう」との指示が、語いの定着の例としては「読み直して、自分が使ってみたい単語に下線を引こう」との指示がなされた。どこに線を引いたのかを他の学習者とsharingすることで、数回以上英文を読み直すことになり、読み慣れることもできるし、相手が何に関心を持つのかについて知ろうとする態度も養える。下線を引かせるというシンプルな活動だがたいへん奥が深かった。なお、語い指導については、受容語いと活用語いの区別を明確にしたうえで、活用語いを増やす工夫が必要である。新出単語として扱うときに導入を印象的なものにするだけでなく、その後も機会を捉えて繰り返し意味のある文脈の中で出会って始めて語いの定着がすすむことを十分に意識しなければならない。

今回の研修会では、活動のあとにペアやグループでの話し合いが必ず設定されており、主体的に参加することで学びが深まる体験ができた。研修に参加する際には、明日から使えるアクティビティを求めるだけでなく、何のためにこの活動が行われるのかを考え、持ち帰ることが大切だということが実際に体感できた。

(文京区立文林中学校 岡部芳枝)

各区市町村英語教育研究部部長会・幹事会の報告

各区市町村英語教育研究部部長会・幹事会が、8月26日に渋谷区立鉢山中学校にて行われました。この会は、「英語教育にかかわる今日的な課題を中心とした情報交換や研究協議を通して、都内各地区における公立中学校の英語教育の改善ならびに推進に資する」ことを趣旨として都中英研が主催しています。今回も各地区からの参加者を得て、実りある研修や情報交換などが行えました。

ご講演をいただきました、専修大学教授の田邊祐司先生からは、「これからの中学校英語教育のあり方：3D音読のススメ」と題した実践的なお話をいただきました。「2D音読」を、「文字を意味なくただ音声化すること」、「3D音読」を、「その場の状況や人の立場、気持ちなどを理解した上での感情のこもった音読」と捉え、「3D音読」が現在の英語の授業には足りないというご示唆をいただきました。田邊先生は、「verbal communication に、non verbal communication の elementsを入れていくことで3D音読になる」と表現されていました。

なお、会の内容は次の通りでした。

1. 会長挨拶・講師紹介（井田宗宏会長）
2. 講演会「これからの中学校英語教育のあり方」（専修大学 田邊祐司教授）
3. 協議・連絡
 - (1) 夏期語いワークショップの報告（北原延晃研究部長）
 - (2) サマーワークショップの報告（横山達也事業部長）
 - (3) 都英語学会について（横山達也事業部長）
 - (4) コミュニケーションテストについて（重松靖調査部長）
 - (5) プロジェクトチーム研修会の報告（斉藤節子PT部長）
 - (6) 関プロ山梨大会について（飯島光正副会長）
 - (7) 全英連奈良大会について（惣田修一副会長）
 - (8) 各地区の活動状況の報告と質疑応答



――出版部からのお知らせ――

中英研出版部では、年3回出版物をお届けしています。1学期に発行する『都中英研だより』では、主にその年度の事業計画をお知らせしています。また、2学期発行の『都中英研だより』では、紙面の許す限り各地区の研究活動の詳細をご紹介しますよう努めております。

年度末の『都中英研会報』では、その年度に行われた都中英研の全事業と各地区の研究活動の様子をまとめてお伝えしています。特に、各地区の研究活動報告は、広汎な東京都全地区より、各地区部長・幹事長の皆様から報告をいただいております。紙面はわずかですが、各地区の特徴や都全体の動向が理解できるものとなっています。改めまして、各地区部長・幹事長の皆様には、ご執筆にご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

それぞれの出版物については、中英研全会員にお届けしたいところですが、予算の関係上、各校2部とさせていただきます。ご理解いただきたいと思います。なお、この点に対応するよう「中英研ホームページ」に、すべて掲載していますので、ご覧いただければ幸いです。

今後とも、中英研出版部の活動にご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

（出版部長 石鍋 浩）

<中英研ホームページ>

<http://www.chueiken-tokyo.org>

<出版部への問い合わせ先>

連絡先：足立区新田学園 校長 石鍋 浩
TEL: 03-3913-6665 FAX: 03-3913-6666